予告

FUTURE EVENT 01

2010年度 アート&デザインセンター 夏の企画展

# Unique Commons
## ―わたしだけの みんなのもの―
## 名古屋芸術大学美術学部洋画卒業生展

あいち トリエンナーレ 2010 パートナーシップ事業

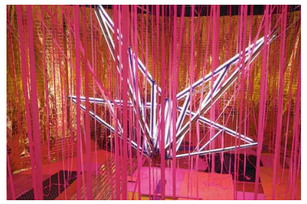
2010年8月17日[火]– 9月2日[木]
会期中無休　12:00–18:00
名古屋芸術大学アート&デザインセンター

愛知トリエンナーレで活気づき、にわかに現代アートが盛り上がってきた。近年活躍し始めた本学洋画コース卒業生たちを一同に集めて行う企画展覧会。

Unique Commons のユニークとは特有の「存在」であることであり、コモンズとは「共有」の意味を持つ。
美術作品は、作家固有で唯一無二(Unique)の表現であるが、同時に公的な共有財産(Commons)である。
また個人を基礎にした表現が、人類にとって共通の財産になっていくための教育を、芸術大学は担っている。
ひとりよがりでもなく、流行を追うだけでもない。固有と共有の両輪を成立させる奇跡が美術作品であろう。

今回選出された25名は名古屋芸術大学美術学部洋画を1996年から2010年の間に卒業し、作家活動を続ける面々である。その表現は絵画表現を中心にしつつもその内容はジャンルを問わず個性派ぞろい。若いエネルギーが交差してどのように空間を埋め尽くすのか期待したい。

アーティスト・トーク+レセプションパーティー
2010年8月21日[土]16:00–19:00
名古屋芸術大学 西キャンパス アート&デザインセンター



「flimsy royal」
鬼頭 健吾
2009

「S」
名知 聡子
2009

| | | | |
|---|---|---|---|
| 浅井 雅弘 | 坂上 ちさと | 名知 聡子 | 三木 瑠都 |
| 石神 則子 | 坂柳 光香 | 西出 真美 | 宮崎 浩太 |
| 井上 信也 | 櫻井 りえこ | 西山 弘洋 | 村田 仁 |
| 岡川 卓詩 | 佐々木 憲介 | 野中 迪宏 | 和田 典子 |
| 小原 朋世 | 佐藤 翠 | 禿鷹 墳上 | |
| 川上 美里 | 鈴木 勇士 | 畠山 瑞規 | |
| 鬼頭 健吾 | 田中 桂 | 前川 宗睦 | |

主催：名古屋芸術大学

2010 4-7 EXHIBITION SCHEDULE

Open 12:15–18:00(最終日は17:00まで)日曜休館　入場無料　どなたでもご覧いただけます。
スケジュールは変更になる場合がありますので、ご確認ください。

| | | |
|---|---|---|
| 4/23(金)→ | 4/28(水) | 写真部展 |
| 4/23(金)→ | 4/28(水) | HANDS 展 |
| 5/ 7(金)→ | 5/12(水) | 創作折紙作品展 |
| 5/14(金)→ | 5/19(水) | 最近メンタル弱くなったんじゃない? |
| 5/14(金)→ | 5/19(水) | におい展 |
| 5/21(金)→ | 5/26(水) | 未来へ繋がる運命を信じる幸せな偶然 |
| 5/21(金)→ | 5/26(水) | Kalevala |
| 5/21(金)→ | 5/26(水) | plant⁴展 |
| 5/28(金)→ | 6/ 2(水) | 気を抜くな三角形 |
| 6/ 4(金)→ | 6/ 9(水) | 「From REMISEN#12; Helle Vinter&Marina Pagh」展 |
| 6/ 4(金)→ | 6/ 9(水) | 「After REMISEN　12×12」展 |
| 6/11(金)→ | 6/16(水) | 名古屋芸術大学教員展 |
| 6/18(金)→ | 6/23(水) | 地図帳 |
| 6/18(金)→ | 6/23(水) | fff☆展覧会 |
| 6/18(金)→ | 6/23(水) | shine |
| 6/25(金)→ | 6/30(水) | 洋画1コース3年 展 |
| 7/ 2(金)→ | 7/ 7(水) | 2010年度 前期交換留学生作品展 |
| 7/ 9(金)→ | 7/14(水) | present –洋画2コース選抜展– |
| 7/16(金)→ | 7/28(水) | 素材展 |

編集後記

紫陽花と雨の季節が到来しました。年々温暖化の影響も顕著ですが、花や気候で季節を感じられる地球環境を少しでも維持できるよう努力したいものです。どんな些細なことでも、自発的な意識を持って取り組む姿勢は、自然と周囲にも伝わってきます。良い刺激を受けて、2010年度最初の号も発行です。

吉安恵子(アート&デザインセンター)

**最寄りの交通機関をご利用の場合**
名鉄犬山線(地下鉄鶴舞線乗り入れ)徳重・名古屋芸大駅下車西へ約1,000m徒歩15分
※急行一準急電車の場合は西春駅で普通電車に乗り換えるか下車してください
中部国際空港からも名鉄犬山線をご利用ください
西春駅から北西約2,200m徒歩25分、西春駅からはタクシーの便もあります
**自動車をご利用の場合**
名神一宮インターから10分、名神小牧インターから15分。

大学基準協会認定マーク
本学は2006年4月に認証評価機関である大学基準協会の大学基準に適合と認定され、正会員になりました。
認定期間は2006年4月から2011年3月までです。
これによって法令化されている「第三者による認証評価」にも合格したことになります。


名古屋芸術大学 Art & Design Center
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地　TEL[0568]24-0325　FAX[0568]24-2897



B!e Vol.28
発行日　2010年6月25日
発行　名古屋芸術大学アート＆デザインセンター
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地　E-mail adc@nua.ac.jp　URL http://www.nua.ac.jp


2009　Printed in Japan © Art & Design Center, Nagoya University of Arts


デザイン／印刷　サンメッセ株式会社



NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS
B!e
NAGOYA UNIVERSITY OF ARTS　ART & DESIGN CENTER　NEWS　2010.Vol.28


# 名古屋の現代美術画廊
Contemporary Art Galleries in Nagoya

## 70–80年代、画廊が牽引した名古屋の現代美術事情

2009年度の卒業制作展で、地元の美術館学芸員から「ぜひ資料のコピーが欲しい」との反響を得た美術学部美術文化学科の卒業論文があった。時田千裕さんの「名古屋におけるアートスペースの躍進ーギャラリーU 1976-1983年の軌跡ー」である。70-80年代、まだ公立美術館のインフラが整う以前の名古屋において、若い作家たちや画廊主らによるアクチュアルなアートの現場があった。名古屋市中区栄三丁目の丸善裏にあった**ギャラリーU**は、商業画廊とは一線を画した、現代美術の最前線の実験場であった。時田さんの卒業研究は、主要な作家や関係者への聞き取り調査と資料をたぐることで、このギャラリーの活動を丹念に記録整理したものであった。

ちなみに、名古屋の現代美術画廊として全国的な知名度を誇っていたのは、50年代末に前身となる桜画房を開設した藤田八栄子さん(桜のオバちゃん)と**桜画廊**の存在だ。その桜画廊が74年に完全な企画画廊に転換し、そうして生まれた場のひとつが、このギャラリーUであった。つまりこの時期、地元の若い作家たちの発表の場が切実に求められた。ギャラリーUでは、若手作家の発表の場という期待を担い、さらには時代の先端でもあったコンセプチュアルな作品を中心に、評論家の存在や美術批評を重視した企画展が展開されたのだった。

一方、「現代美術が盛んな名古屋」を印象づけ、世界的な視野で発信した画廊の存在が、この地域のコレクターの存在と眼を育てていったことも見逃せない。**アキライケダ・ギャラリー**(前身:バルール画廊)や**ギャラリーたかぎ**(前身:ギャラリー・ヴォザール)はともに、ビジネス感覚の長けたオーナーがそれぞれ70年代後半に画廊を設立し、バブル経済を経て90年代に至るまで国際的で華やかな活動を展開した。

70年代後半の名古屋、こうして様々なタイプの画廊が共存し、それぞれの存在意義を明確にして活況を呈しはじめたのであった。たとえば、上記に挙げた以外にもこの当時、栄周辺には**名古屋画廊、日動画廊、ギャラリーはくぜん、ギャラリー・ユマニテ、ボックス・ギャラリー、伽藍洞ギャラリー**があり、さらには現代アートの勉強会などを開催していた**8号室**もあった。まだまだ新たな需要と熱気があった時代。こうした渦中の77年秋、大学を卒業して間もない若い夫婦が名古屋市西区菊井町に開設したのが、**ギャラリー・ウェストベス**であった。

30年もの時は経った。いま、当時を知ることのない学生たちにとって、「現代美術が盛んな名古屋」という言葉はいかに響くのだろうか?あいちトリエンナーレ開催を目前にして、あらためて思いを馳せたい。

高橋綾子 美術学部准教授

# 名古屋の現代美術画廊

Contemporary Art Galleries in Nagoya

現代美術画廊巡り。名古屋市内にはいくつも個性豊かな画廊が存在します。ちょっと足をのばせば半日で廻れる有意義な時間。でも、画廊はちょっと敷居の高い場所でしょうか。

美術文化コースの学生がそれぞれの画廊主に取材し、その概要と所感をまとめました。

画廊名
所在地
連絡先(TEL)
URL
設立年
代表者(敬称略)

Space Gray「新村秀人」展/取材日5月28日

## ウエストベスギャラリー コヅカ

Westbeth Gallery Kozuka

名古屋市中区丸の内1-9-7 バンケービルB1F
TEL:**052-232-0777**
URL:**http://kozuka.art758.com**
設立:1977年11月
代表:小塚正和

### 理想に向かって進化する

不思議な造りの空間で、まるで秘密基地に足を踏み入れた様な感覚を覚えました。ウエストベスギャラリーコヅカには、取扱い作家の企画展示が主に行われるSpaceGrayと、平面作品のためのSpaceWhiteがあります。若い作家の発表の機会のためにレンタルもされており、世代やキャリアの異なる作家同士が顔を合わせる場にもなっています。

1977年、美術大学を卒業してまもない小塚正和さんと弘子さん夫妻は、当時ニューヨークのアートを紹介した雑誌に憧れて、同世代の作家達が自由に作品を発表できる理想の画廊をつくろうと、ウエストベスギャラリーを設立しました。その後は作家達が成長するのに合わせ、より相応しい発表の場を提供できる様にと、何度も移転を行っています。「その度に新たな理想を描いている」と弘子さんは力強く語ってくれました。

この6月には東京店を新たに進出し、清野祥一や小谷浩士、鈴木淳夫など名古屋を拠点に地道に活動している作家を積極的に紹介していくとのことです。今後も発展を続けるエネルギッシュな画廊だと思いました。

(取材・文／吉川研太)

鋤柄ふくみ「はだか」展/取材日5月21日

## 白土舎

Hakutosha

名古屋市中区錦1-20-12伏見ビルB1F
TEL:**052-212-4680**
URL:**http://www.h3.dion.ne.jp/~hakuto/**
設立:1992年12月1日
代表:土崎正彦

### 画廊の心“作家を大切にする”

白土舎は、伏見駅を出てすぐ横浜銀行のあるビルの地下にあります。画廊の名の通り、漆喰の壁をイメージした白い壁で囲まれた四角い空間の画廊です。こぢんまりとした空間ですが、展示作品によって毎回雰囲気が変わっています。

取り扱い作家には、ベテランでは鷲見麿や設楽知昭、若い作家では坂本夏子がいます。また若い頃からの奈良美智を地道に紹介してきたことでも有名です。土崎さんは「最近の白土舎の作家はみんな暗いねと言われるんですよ」と苦笑されます。しかし、そのことはそれぞれ独特の世界観が充実しているということでもあるのでしょう。

企画を決めるときは、土崎さんは自分の足で作家に会いにいき、アトリエを訪ねることを大切にしています。また、戦後美術についても関心が深く、「戦後美術のメモランダムシリーズ」として竹田大助や星野眞吾などを紹介しています。こうした発掘的な作品の紹介と現代の新しい作家の紹介を両輪とされているのです。

一人一人の作家を大切にしながら活動していることが、白土舎の魅力ではないでしょうか。

(取材・文／清水未麻、高山麻友)

新美泰史「Painting+Drawing展
“エルサレム エルサレム エルサレむぅー”」/取材日5月21日

## ギャラリー HAM

Gallery HAM

名古屋市千種区内山2-8-22
TEL:**052-731-9287**
URL: **http://www.g-ham.com/**
設立:1990年
代表:神野公男

### アートフェアで問う

地下鉄今池駅から徒歩5分、ギャラリーHAMは静かな住宅街にある自宅兼ギャラリーです。薄い茶色の木製の壁作りで、薄緑の大きなドアを開けると、入り口から優しい風が入ってくるなんとも心地よい空間でした。

70年代の初頭はフランスに滞在していたというオーナーの神野さんは、様々な画廊や美術館を見て回り、美術の知識や仏語を習得したそうです。その後、ギャラリーたかぎに勤務し、90年に自身のギャラリーを設立しました。ケルンやバーゼルなどのアートフェアに積極的に参加し、世界最先端の作品を自分の目で見て多くの作家や関係者との交流をされました。神野さんは自身の知識や感性を、作品の管理や運営に活かしています。とはいえ、四季がある日本は湿気や気温の変化があるので欧米とは違い、作品の管理は大変だとのことです。

詩人でもある神野さんは、芸術を様々な角度から見ている方で、芸術の存在を作品や作家を通して追い求めている様に思いました。

(取材・文／祖父江衣純)

木村充伯「油を吸う男」展/取材日5月21日

## ケンジタキ ギャラリー

KENJI TAKI GALLERY

名古屋市中区栄3-20-25
TEL:**052-264-7747**
URL:**http://www.kenjitaki.com/**
設立:1994年3月
代表:滝 顕治

### 前進しつづける“企画”ギャラリー

名古屋市美術館のほど近くに位置するケンジタキギャラリー。すりガラスの大きな扉を開けると、日常とは別世界の高い天井の空間が広がります。さらに奥にある階段を上ると、2階にも展示空間があります。

村岡三郎や塩田千春、トニー・クラッグなど国際的に活躍する著名作家の紹介で知られるケンジタキギャラリーでは、吉本作次や鬼頭健吾など名古屋芸術大学とも縁の深い作家も取り扱っています。

オーナーの滝さんは、ギャラリー運営に対して堅実でありながらも果敢な姿勢を貫く方のように感じられました。「現在の不況の中、どうしようと悩み立ち止まることは無いのですか？」という素朴な質問に「ギャラリーは進まなければ終わりだよ」ときっぱり答えられました。

さらに滝さんは「若い人はもっとギャラリーに足を運ぶべきだよ」と私たち学生にアドバイスをしてくれました。現代美術のギャラリーとは、新鮮な作品や作家を知ることが出来る、身近で貴重な場だと改めて気付きました。

(取材・文／柿谷今日子)

小林亮介「展開する風景」展/取材日5月28日

## ガレリア フィナルテ

Galleria Finarte

名古屋市中区大須4-6-24　成田ビル上前津B1F
TEL:**052-242-8684**
URL:**http://www.finarte.net/**
設立:1990年
代表:福田久美子

### 自分の目と足でつくりあげた“画廊オーナーの信念”

上前津にある8階建のビルの地下に、現代美術画廊ガレリアフィナルテはあります。地下にあるからでしょうか、名古屋の街の賑やかさと切り離された、静かで落ち着いた空気が画廊空間に漂っていました。映像作品や彫刻、インスタレーションなど、絵画だけではない様々なジャンルの作家の展覧会も行なわれています。

取材の中で、「画廊のオーナーは本当に大変だ」という言葉を福田さんは何度も口に出されていました。しかし、そう話す福田さんはとても生き生きとした様子で、たとえ辛くてもずっと続けたくなるような魅力が画廊業にはあるのだと感じました。

91年からディレクターとしての立場で画廊に関わっていた福田さんは、93年からオーナーとして全てのことを取り仕切るようになりました。全国の展覧会に積極的に足を運び、そこで出会ったO JUNさんをはじめ魅力的な作家と作品をフィナルテで紹介しています。その福田さんの姿勢から自分が本当に良いと思ったものを世に発信したいという、画廊オーナーとしての強い信念を感じました。

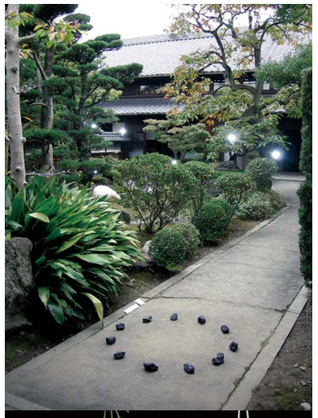
(取材・文／角谷紗裕美、吉田まどか)

REVIEW PREVIEW

# 『旧加藤邸アートプロジェクト　2009／2010』

2009年10月31日[土] — 11月8日[日]／2010年11月6日[土] — 11月14日[日]

**そもそも、社会とのパイプ役として「芸術と社会」は、庄司達先生の活動のキーワードのひとつでもあるようです。さかのぼれば、1969年の『第1回名古屋野外彫刻展』は、若き企画者として庄司先生が、この地域の芸術家たちに呼びかけ開催したものでした。作家として、教育者としてばかりでなく、実は、「仕掛人」あるいは「ディレクター」としての気質もお持ちで、その多岐にわたる活動はとどまるところを知らず、今なお進行形です。　その庄司先生に、今回は『旧加藤邸アートプロジェクト』についてお話を伺いまとめました。**



※国登録有形文化財「旧加藤家住宅」は、全国に先駆けた心理療法「回想法」の研究、普及のための拠点「北名古屋市回想法センター」としても一部活用されています。

### このプロジェクトのはじまりは

この企画は、数年前から学生たちとお世話になっている北名古屋市役所の広報企画課へ、一昨年、再びどこか面白い展示場所はないかと訪ねた際、居合わせた職員の口から「旧加藤家」の名前があがったのが始まり。「旧加藤家」のような国登録有形文化財が会場の場合、こうした市や大学との連携だからこそ、成立する内容のプロジェクトになっている。

### 応募について

公募用紙には、事前の説明を受けて感想を記載する欄がある。説明会に参加できなかった人も、まずは現地に赴き、場を介在してのプロジェクトである事を理解し考えて欲しい。日本家屋ならではの空間やたたずまい、また回想法センターとしての役割など、この空間でのインスピレーションを活かした創作を前提として審査する。

### 2009を振り返って

入選時のプランが曖昧だった場合は、話し合いの上、より明快なものにした。また時間や天気、あるいは場の制限など多岐にわたる分野に対応すべく試行錯誤もした。時には私自身が出品作の小道具を探しまわっていたりすることもあった。

終わってみれば、参加した18名は、表現や分野の異なる顔ぶれが結集したことで、素の自分に立ち返り見つめ直す時間を体感していたようだ。

### 2010に向かって

2010では、パフォーマンス部門を新設し、ワークショップや時間限定の演奏会やパフォーマンスなど、芸術に携わる広い領域からの参加を期待している。　また、北名古屋市の文化祭の目玉のひとつとして、市も積極的に後押ししているので、より多くの人に観てもらえるチャンス。ひとまわり成長し、さらに手応えのあるプロジェクトに今年も期待していて欲しい。

現地説明会

### 公募『旧加藤邸アートプロジェクト2010　記憶の庭で遊ぶ(仮)』展

| | |
|---|---|
| 会　期 | 2010年11月6日[土]－11月14日[日]　9日間 |
| 会　場 | 国登録有形文化財「旧加藤家住宅」の建物と庭　北名古屋市六ツ師704－1　北名古屋市回想法センター |
| 公募内容 | **A 美術・造形作品部門**（絵画、彫刻、写真、映像、絵本、玩具、インスタレーション）<br>**B パフォーマンス部門**（ワークショップ、パフォーマンス） |
| 応募資格 | 美術・デザイン・音楽学部（在校生、大学院生、卒業生） |
| 応募締め切り | 6月29日[火]午後4時　西キャンパスY棟2階美術学科事務室（所定応募用紙有） |
| お問い合せ | 旧加藤邸アートプロジェクト運営委員会　電話：0568－24－2893（立体造形コース）<br>0568－24－0350（アートクリエイターコース事務室） |

**http://www.nua.ac.jp/**

写真:庄司達

ART WORDS FROM THE ART WORLD

株式会社 AXIS
情報企画グループ・ギャラリーマネージャー

内藤　稔
Minoru　NAITO


※写真は筆者デザインによるキッチンスケール2010年で製造、販売25年を迎える。

## 芸術一話 第4話 デザイン力

昨今、世の中の問題を「デザイン力で解決する」という話や、記事を見聞きする事が多い。解決すべきテーマは多岐にわたり、経済、会社経営、町おこし、家屋、多くの物が対象にされる。

さて、「デザイン力」とは何だろう。ここでは、インダストリアルデザインを例に考えてみたい。

優れたデザインを評価する言葉に、「ロングライフデザイン」という言葉がある。これはその製品が世に出てから最低でも10年間変わらずに製造販売され、人々の生活に役立っている製品への賞賛である。

『ロングライフデザイン』はデザイナーの目から見れば、10年間も変わらず新鮮さが無いつまらない物に映るかもしれない。しかし経営者の目で見れば、ロングライフデザインが10年間変わらず安定した販売実績を残す事は、10年間安定した経営を生む、すなわち安定した雇用を確保できる事でもある。10年間製造販売が継続された製品（デザイン）は10年間社会貢献をしたと言える。

デザイン力は「人々の生活を豊かにする物である」と学んだ世代の私は、この言葉を今も信じている。物を所有する豊かさと同様、デザイン力は「人々の生活を支える経済を豊かにする」事を忘れずにいて欲しい。

一方「デザイン力」が無い製品は「人々を豊かにせず貧困に追い込む」これも忘れずに。売れない製品は企業を倒産に追い込み、果ては従業員から労働という生活の基盤を奪う。

デザインに関わる方は「デザイン力」意味を忘れずに。